

令和5年度

事業報告書



設置者	学校法人 頭陀寺学園								
幼稚園名	幼保連携型認定こども園 ずだじこども園								
理事長	鈴木俊徳	園長	鈴木俊徳						
所在地	浜松市南区恩地町291番地								
定員		計	0歳	1歳	2歳	満3歳	年少	年中	年長
	クラス数	16	1	1	1	1	4	4	4
	定員人数	320	9	15	24	20	84	84	84
実人員 5月1日	クラス数	13	1	1	1	1	3	3	3
	1号	158				1	42	54	63
	2号	57					22	23	12
	3号	29	0	14	15				
	合計	246	0	14	15	1	64	77	75

★事業の推進

乳幼児の保育・教育には、乳幼児を取り巻く社会環境を十分に考慮し、乳幼児の保育・教育の果たす使命の認識と実践の推進を図る。教職員の各種研修会に参加し資質の向上を図り、研修事業の充実を行う。同時に園内の施設設備の安全確保と維持管理の充実を行う。

★教育事業

- ①親子を取り巻く社会状況を考慮し、保護者の子育てを支援し、家庭における子供の育つ環境を充実させるための保護者教育を行った。
 - イ) 年間を通して子育て教室（0～2歳対象）を開催した。
 - ロ) 親子の関係と愛着について(講師：西脇先生)
 - ハ) 歯の大切さと歯磨きの仕方学んだ。(講師：保健士さん)
- ②教職員の資質向上のために、各種研修会に参加。園内研修においては臨床発達心理士による愛着理論、発達課題を通して同年齢、異年齢との交流を深め、人間関係を学ばせるための研修を行った。

防災防犯に備え、知識の習得、判断、行動が起こせるように研修した。

 - イ) 非常時に備え、AED、人肺蘇生法講習他を行った。
 - ロ) 交通教室を開催して、道路の歩き方、渡り方を学んだ。
 - ハ) 児童虐待防止についての研修

ニ) 毎月の避難訓練（火災、地震や不審者対応訓練）
ホ) 園医による感染症防止について
- ③年間を通してお年寄り、親子、地域の人、友達との異年齢交流を行った
 - イ) 年間を通して親子の触れ合い活動を実施した。
 - ロ) 年間を通してデイサービス施設(ココくらぶ)を訪問・交流（年長組）、地域の人と触れ合う機会を持った。
 - ハ) 恩地町みどり会に招かれて、さつまいも掘りの体験をした。
- ④子供たちが主体的に取り組むための行事を行った。
 - イ) 運動会（ずだじこども園園庭）
 - ロ) 保育発表会（浜北文化センター）
 - ハ) growth festival（作品展）
- ⑤野菜の種蒔き・苗つけから収穫までの作業を通して、植物の一生を学ぶことにより育てることの難しさと、自然の厳しさを学んでいる。そして畑作業の大人と交流を深めている。また種、若芽を鳥から如何に守るかを学んでいる。
- ⑥年間を通して絵本を見たり、専門家の話や読み聞かせをしたりして楽しんだ。
- ⑦カウンセリングの先生を招き、毎月保護者の教育相談を行った。
- ⑧教職員の資質向上のため、教職員の園内研修、園外研修に参加した。

★施設設備事業

- ①西棟（ぱんだ1・ぱんだ2・ぱんだ3・多目的教室2）の4教室の床（木製）が痛んできたため補修、ワックス掛けを実施した。
- ②遊具の修理を行い安全管理に努めた。

③令和5年12月 多目的教室3の改修工事を行った。

★安全管理事業

- ①災害時に備え、年間を通して多様な訓練を行った。
- ②南海トラフ地震に備え飲料水・食料の補充を行った。
- ③防災防犯に備え、研修を通して安全管理に対する一層の意識を図った。
- ④自然災害に備え、教職員の防災教育・訓練を行った。

学部(中期)評価

未満児	未満児の発達段階を理解し、多くの遊びを経験できるような研修会を開催した。子どもたちに寄り添った保育をしていき子どもたちにとって良い環境となるよう、話し合いも重ねておこなった。今後も全体を見据えた協力体制をつくる。また、子どもたちの導線を理解した上で、環境構成の見直しも図っていききたい。
以上児	3・4・5歳の成長過程を理解できるよう、研修会を開催した。子どもたちが生き生きと生活でき、安心して過ごせるような環境を作っていたが、課題が多くあったため、今後も話し合いを重ねて、自己肯定感を持てるような保育をしていきたい。

学年(短期)評価

0歳児	個々の関わりをもてるよう、ゆったりとした関わりを大切に家庭的な雰囲気の中で保育していった。そのなかで、職員・保護者と連携を密にしていくことの大切さを改めて感じた。
1歳児	子供たちの欲求や意思を十分受け止められるよう、保護者と連携をもって保育をしていくことができたように感じる。また、子供たちの気持ちを理解できるよう研修会なども開催し、職員の向上に努めた。今後も安心した環境に整えていけるよう心掛けていきたい。
2歳児 満3歳児	自我の芽生えを大事にし、気持ちを受け止められるよう配慮することができたように感じる。また、興味関心を高められる時期でもあるため、遊びの環境の話し合いも多く重ねていった。今後もこのような話し合いを重ねていきたいと思う。
3歳児	子供たちが園に登園することに安心を感じられるような環境を作り出すため、学年での話し合いを多く行った。そのため、成長に必要な行動についても理解することができたため、その子その子にとって必要な事柄をしっかりと掴むことができたように感じている。今後も、よりよい成長を促せるよう心掛け、子供ひとりひとりが登園を喜べる環境を作り出していきたい。
4歳児	集団の意識が出始めるため夢中になれるルールのある活動を増やしていった。そのため、大きなトラブルもなく、生活をするのできたように感じる。今後も関わり合いのある活動を多く入れていき、お互いに充実感を感じられるような日々を送れるようにしたい。
5歳児	自分と友達の違いを受け止め、話し合いを重ねながら認め合えるような環境をつくっていった。日常の中で、友達と一緒に過ごす楽しさ、難しさ等、様々な感情に気づくことができたように感じる。園生活での様々な経験を就学しても生かしてほしいと感じる。